

ポンプの役割

福岡導水は、福岡県久留米市にある揚水機場（ポンプ場）で筑後川の水を取水し、佐賀東部水道企業団基山浄水場（佐賀県基山町）、福岡地区水道企業団牛頸浄水場（福岡県大野城市）まで導水しています。

揚水機場（ポンプ場）には4台のポンプが設置してあり、4台の中からローテーションで3台のポンプを稼働させ（設備の故障などを考慮して1台は予備）、ほぼ休むことなく（整備等による停止期間以外）たゆまず取水・導水を続けています。

これらポンプの役割は、必要な水量を必要な高さまで持ち上げることです。

水量としては最大毎秒 2.767m^3 （標準的な小学校のプール〈長さ25m×幅12m×深さ1.1m〉を約2分で一杯にできる）、高さとしては約111m（福岡ポートタワー〈高さ約100m〉、大阪の通天閣〈高さ約103m〉よりも高い）まで多量の水を持ち上げることができます。

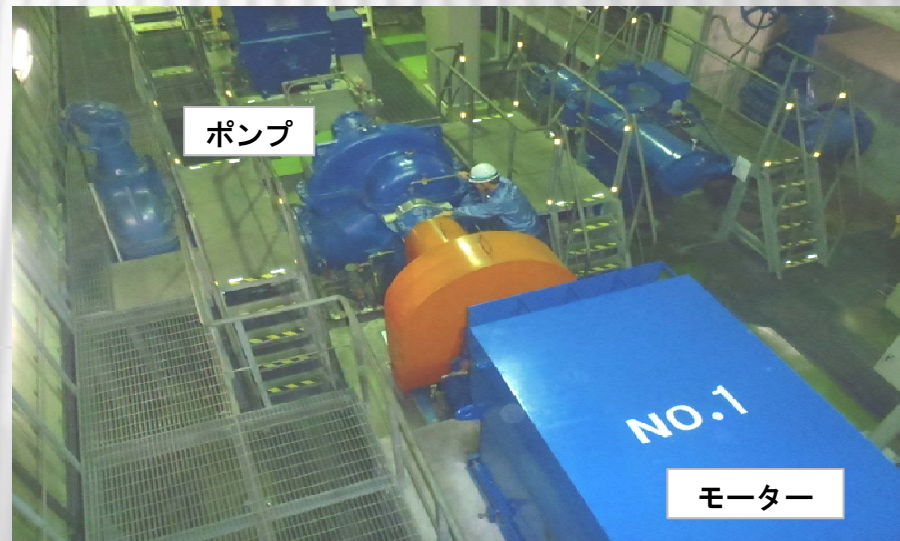
福岡導水管理室では、これらポンプが故障せず、また、その能力を十分に発揮できるように、日常的に点検・整備等を実施しています。

ご興味のある方は、福岡導水管理室まで、是非お越しください。

平成30年2月 福岡導水管理室 K



ポンプ場全景



ポンプ点検